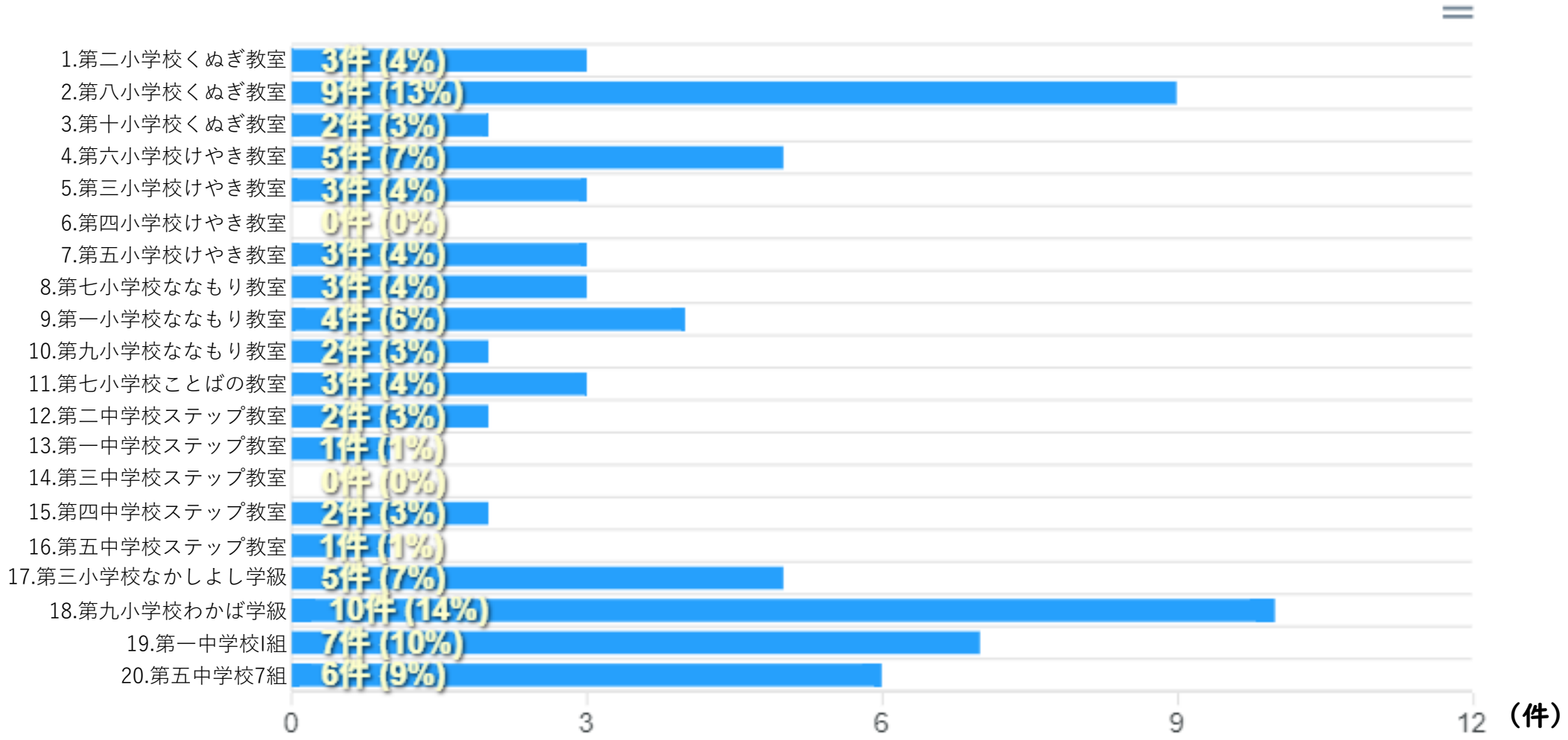
特別支援教育に対するアンケート

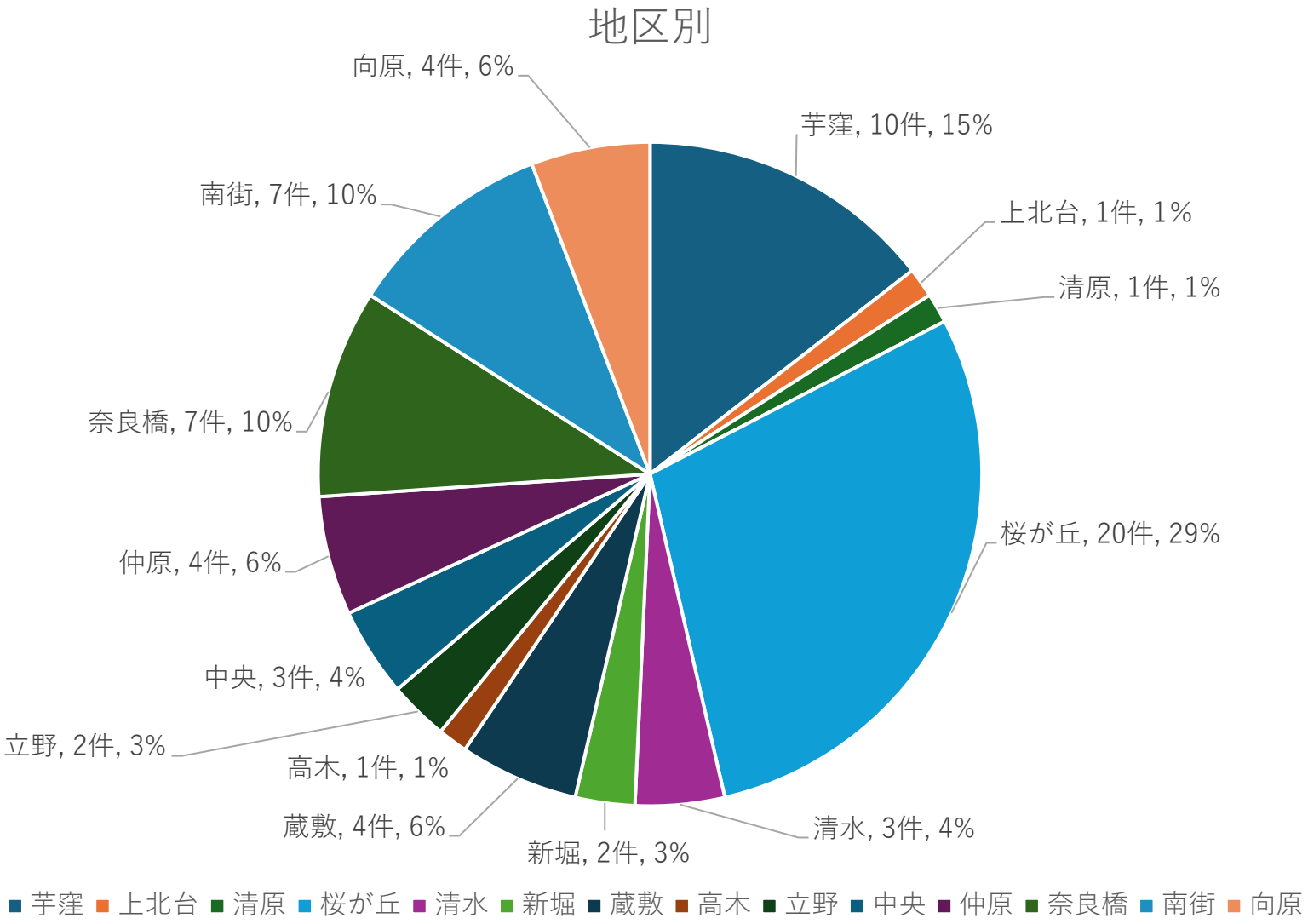
（特別支援学級・特別支援教室）

１.在籍校別回答件数

　回答数の多かった学級、教室としては、第九小学校わかば学級が１０件、次いで第八小学校くぬぎ学級が９件、第一中学校I組が７件となりました。



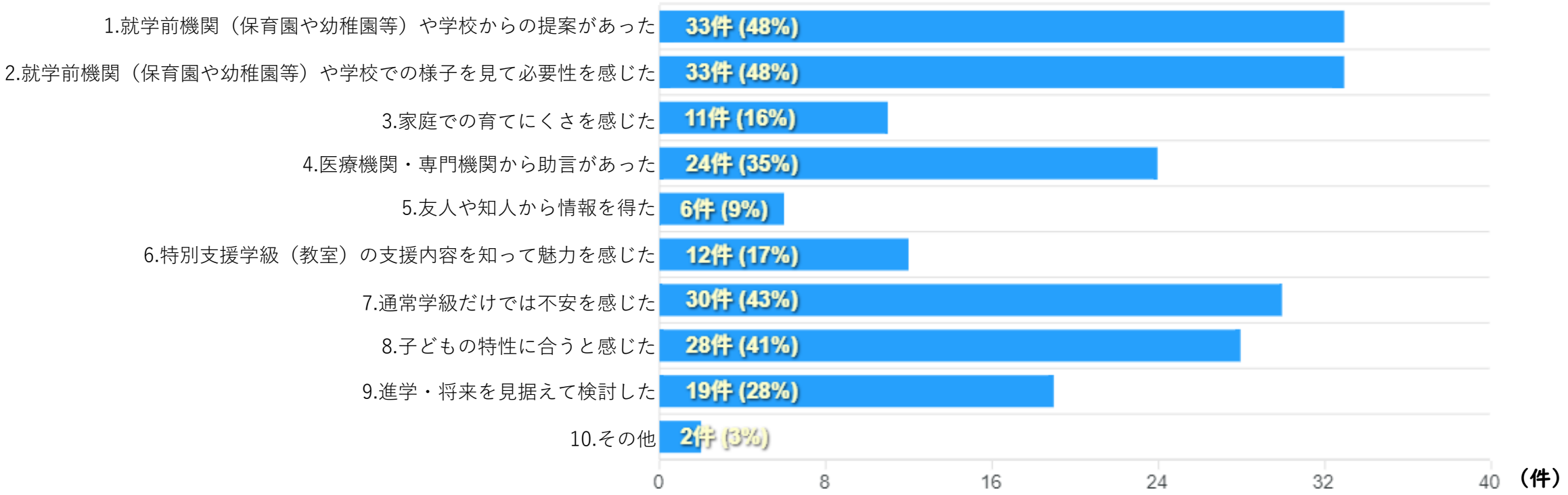
2.地区別回答率



芋窪10件(15%)
上北台1件(1%)
清原1件(1%)
桜が丘20件（29%)
清水3件(4%)
新堀2件(3%)
蔵敷4件(6%)
高木1件(1%)
立野2件(3%)
中央3件(4%)
仲原４件(6%)
奈良橋7件(10%)
南街7件(10%)
向原4件(6%)
合計69件でした。

３.特別支援学級（教室）への入級を考えるようになった理由

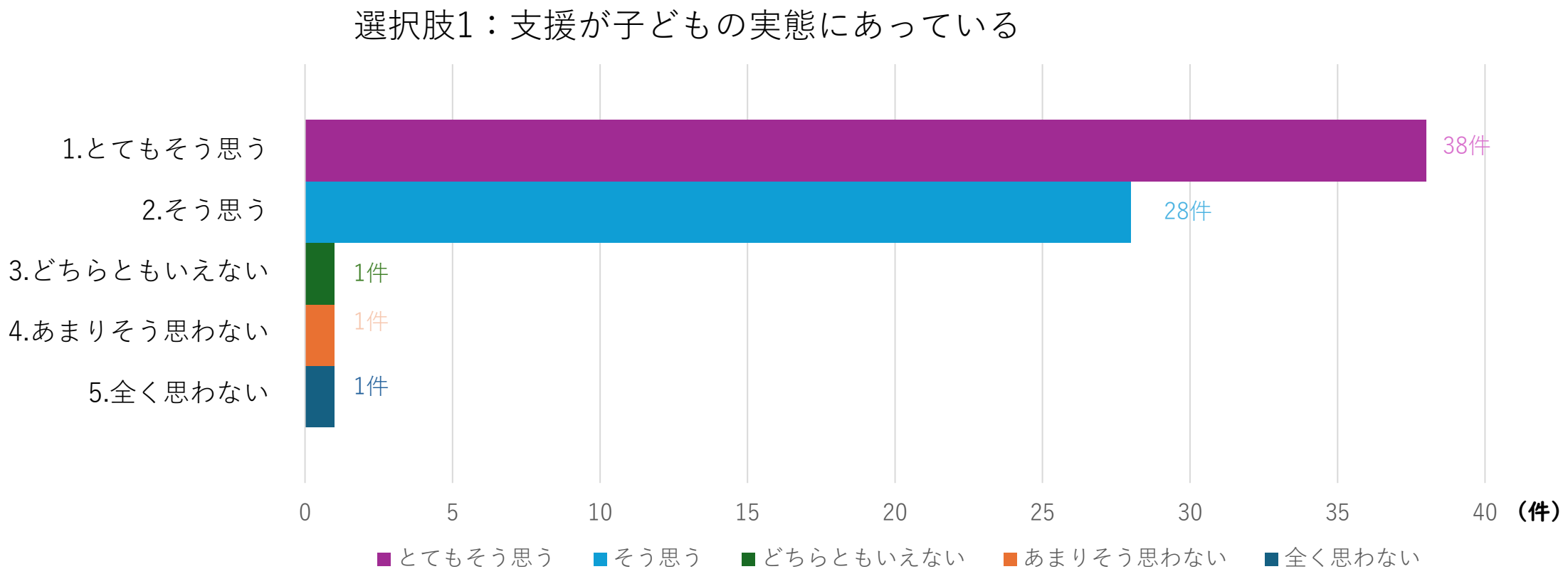
Ｑ３.特別支援学級（教室）への入級を考えるようになった理由を教えてください。（複数回答可）



1.就学前機関（保育園等）や学校から提案があったが33件（48%）と2.就学前機関（保育園等）や学校での様子を見て必要性を感じたが33件（48%）でもっとも多く、次いで、7.通常学級だけでは不安を感じたが30件（43%）、8.子どもの特性に合うと感じたが28件（41%）、4.医療機関・専門機関から助言があったが24件（35%）となりました。

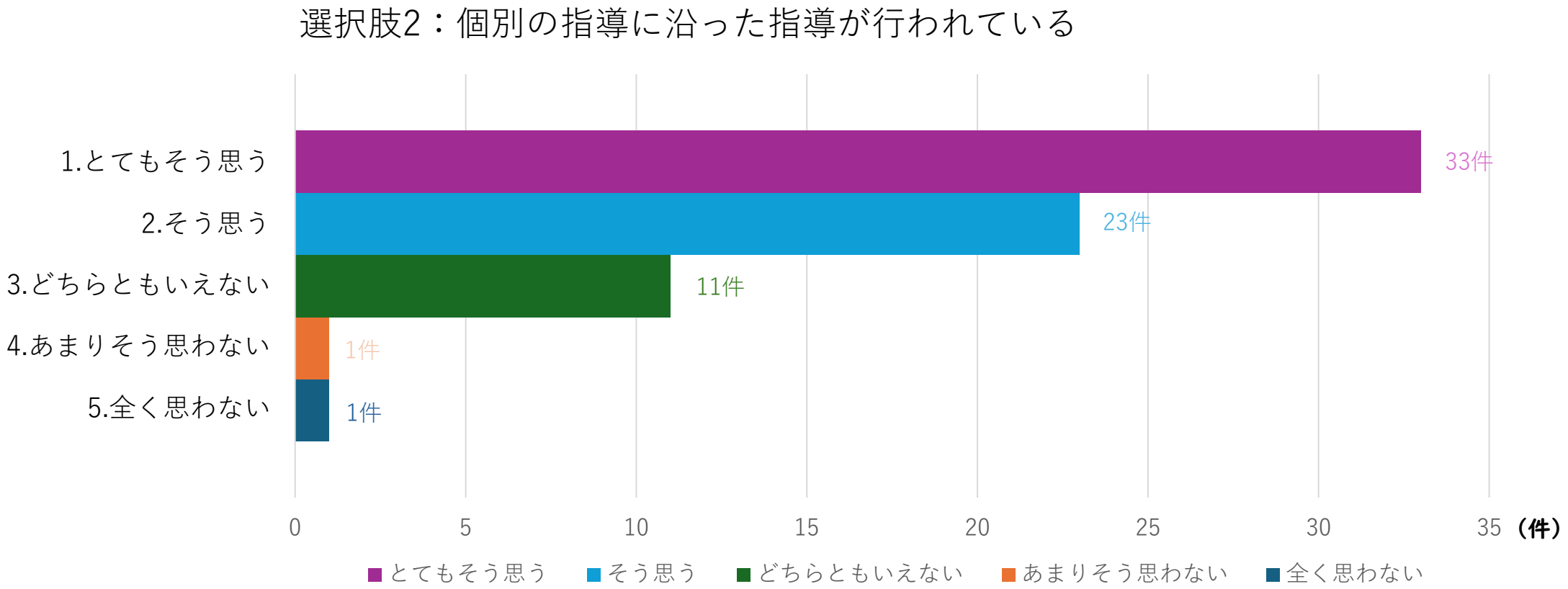
アンケートの結果から、保護者が特別支援学級（教室）への入級を検討する際には、就学前機関や学校の存在が重要な役割を果たしていることがうかがえます。「就学前機関や学校から提案があった」と「就学前機関や学校での様子を見て必要性を感じた」がともに48%で最も高く、教育現場からの情報提供や助言だけでなく、保護者自身も子どもの集団生活や学習場面での様子を通して支援の必要性を認識していることが示されました。また、「通常学級だけでは不安を感じた」（43%）、「子どもの特性に合うと感じた」（41%）という回答割合も高く、保護者が子どもの学校生活への適応や学習面に不安を抱える一方で、特別支援学級（教室）を子どもの特性に応じた適切な教育環境として捉えていることがうかがえます。

４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



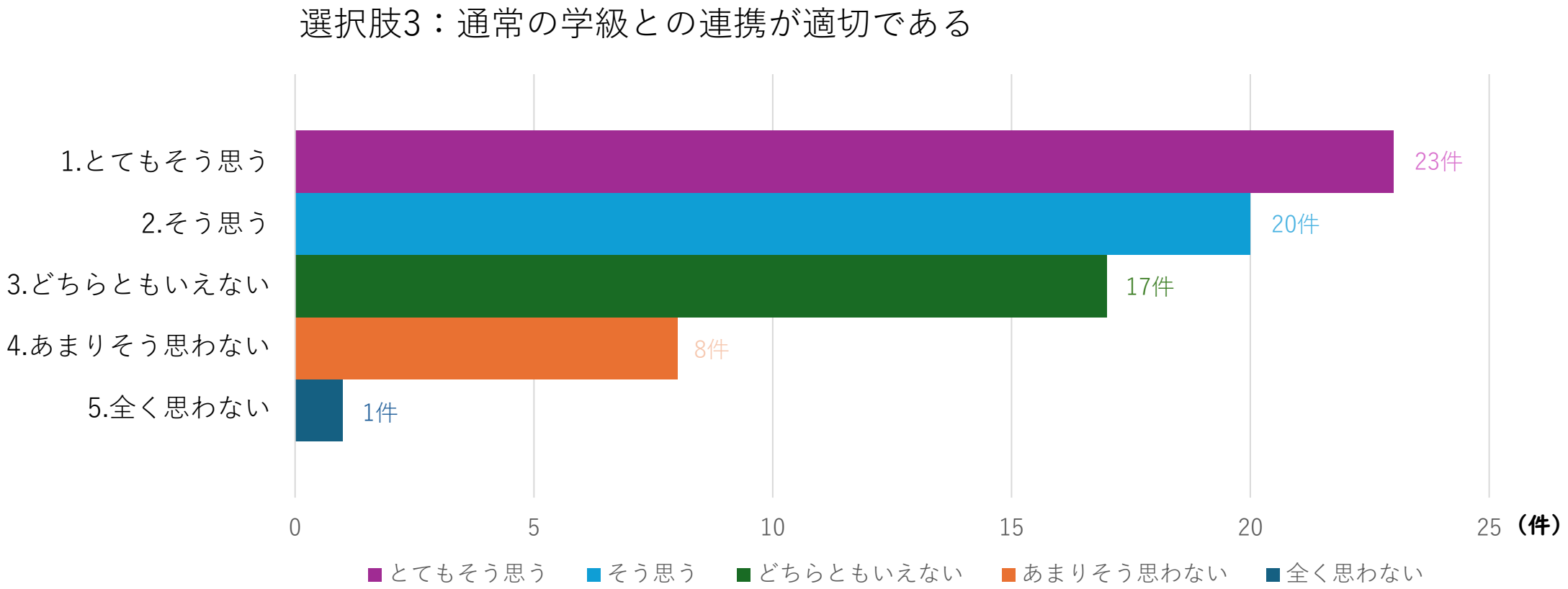
本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢１：支援が子どもの実態にあっているを見ると、とてもそう思うが38件（55％）、そう思うが28件（41％）で96％が『満足している』という結果になりました。アンケート結果から、子どもの実態に合わせた支援を実行できていると判断できました。

４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



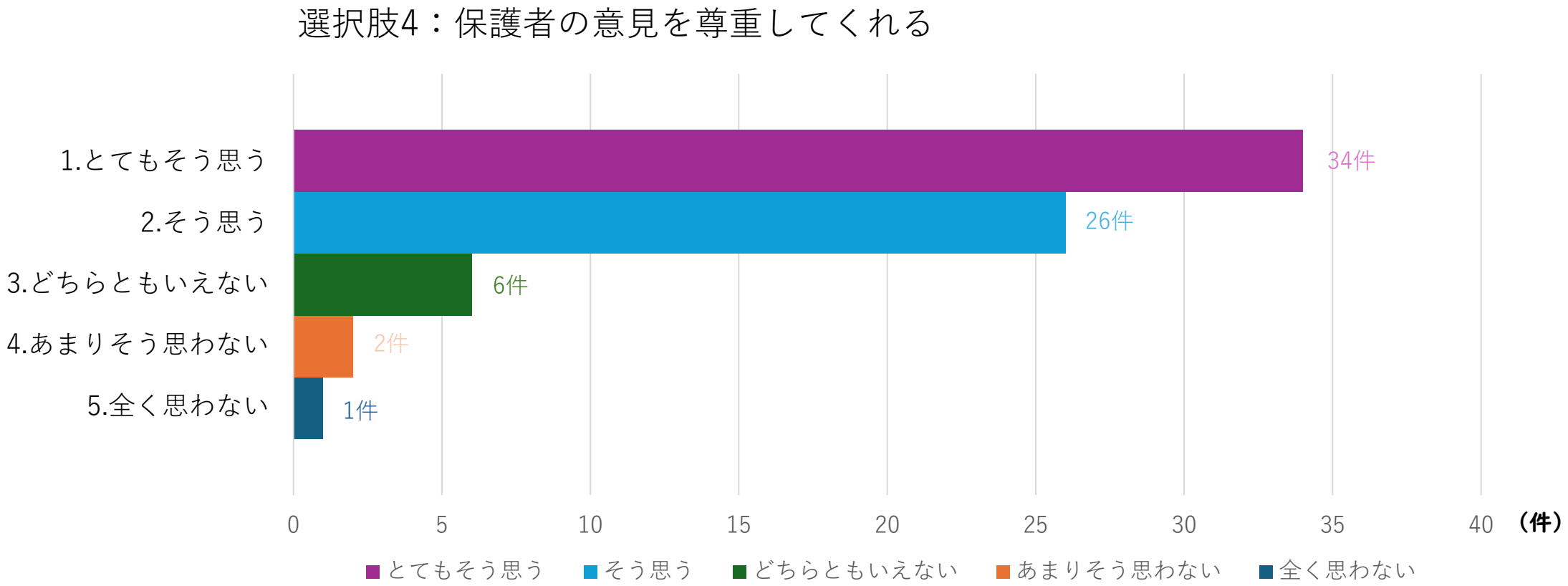
本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢2：個別の指導に沿った指導が行われているについて、とてもそう思うが33件（48％）、そう思うが23件（33％）で81％が『満足している』という結果になりました。どちらともいえないも11件（16％）ありました。

４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



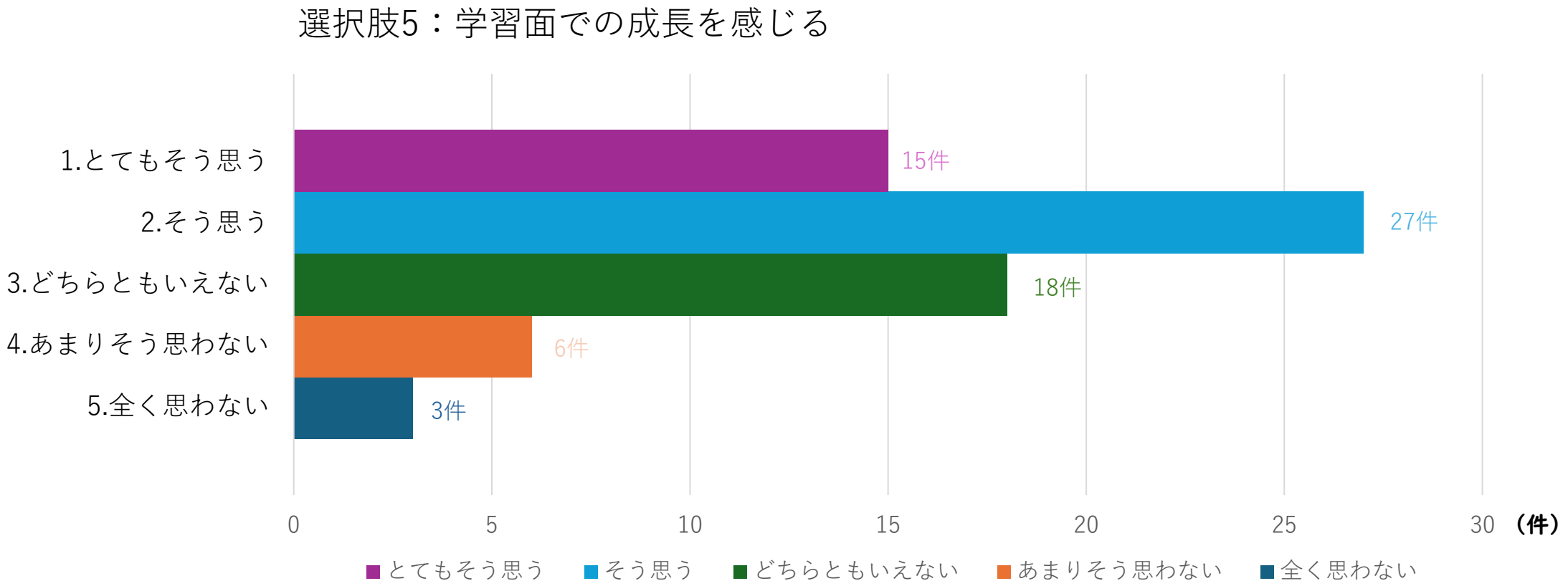
本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢3：通常の学級との連携が適切であるについて、とてもそう思うが23件（33%）、そう思うが20件（29%）で62%が『満足している』という結果になりました。概ね満足しているものの、どちらともいえない17件（25%）の中間層回答が一定数ありました。

４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



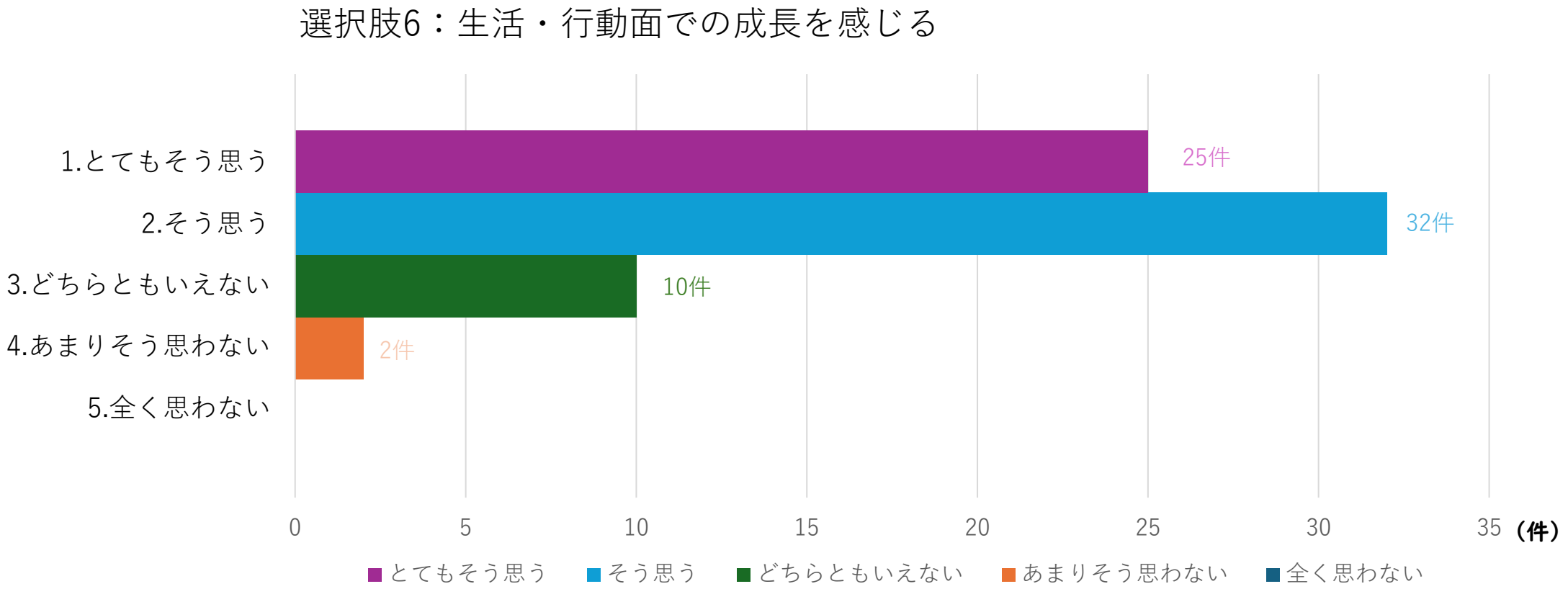
本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢4：保護者の意見を尊重してくれるについて、とてもそう思うが34件（49％）、そう思うが26件（38％）で87％が『満足している』という結果になりました。

４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢5：学習面での成長を感じるについて、とてもそう思うが15件（22%）、そう思うが27件（39%）で61%が『満足している』という結果になりました。どちらともいえないが18件（26%）と比較的多い結果となりました。

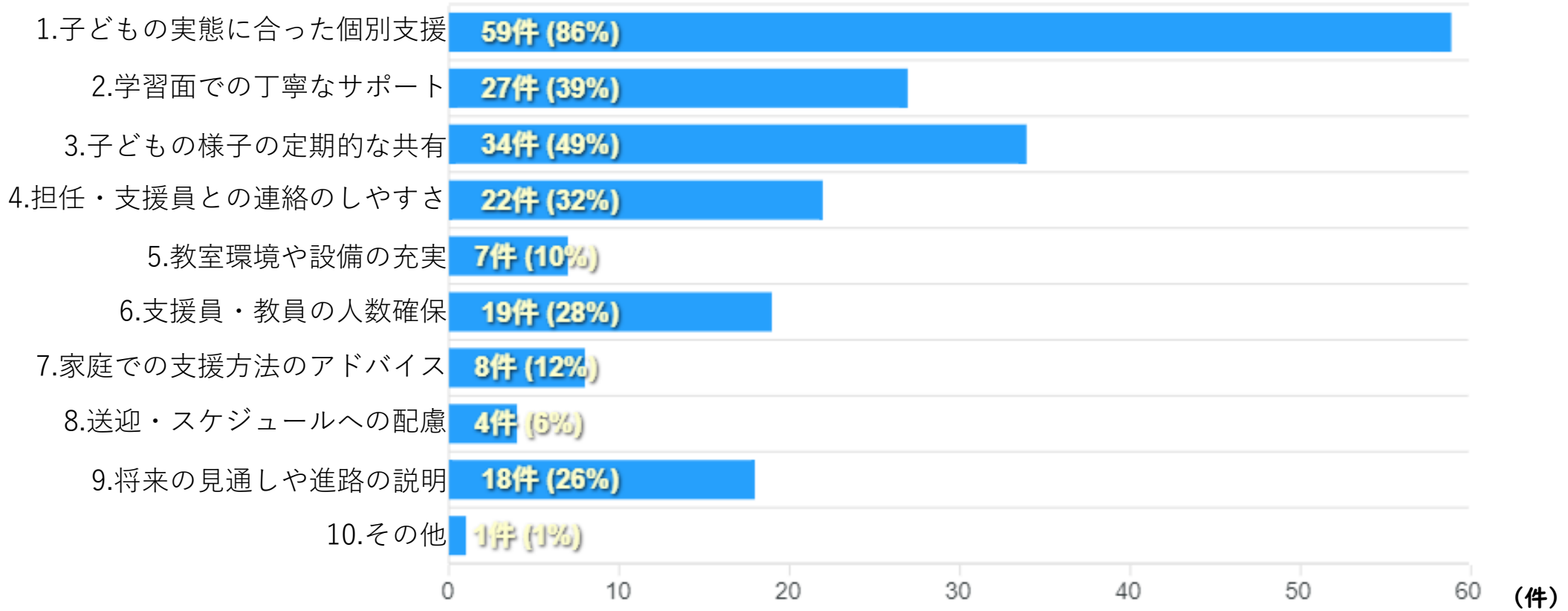
４.特別支援学級（教室）への現在の満足度



本項目において、「とてもそう思う」と「そう思う」を『満足している』、「どちらともいえない」と「あまりそう思わない」を『満足していない』とします。
選択肢6：生活・行動面での成長を感じるについて、とてもそう思うが25件（36%）、そう思うが32件（46%）で82%が『満足している』という結果になりました。

5.特別支援学級（教室）に保護者として特に期待すること

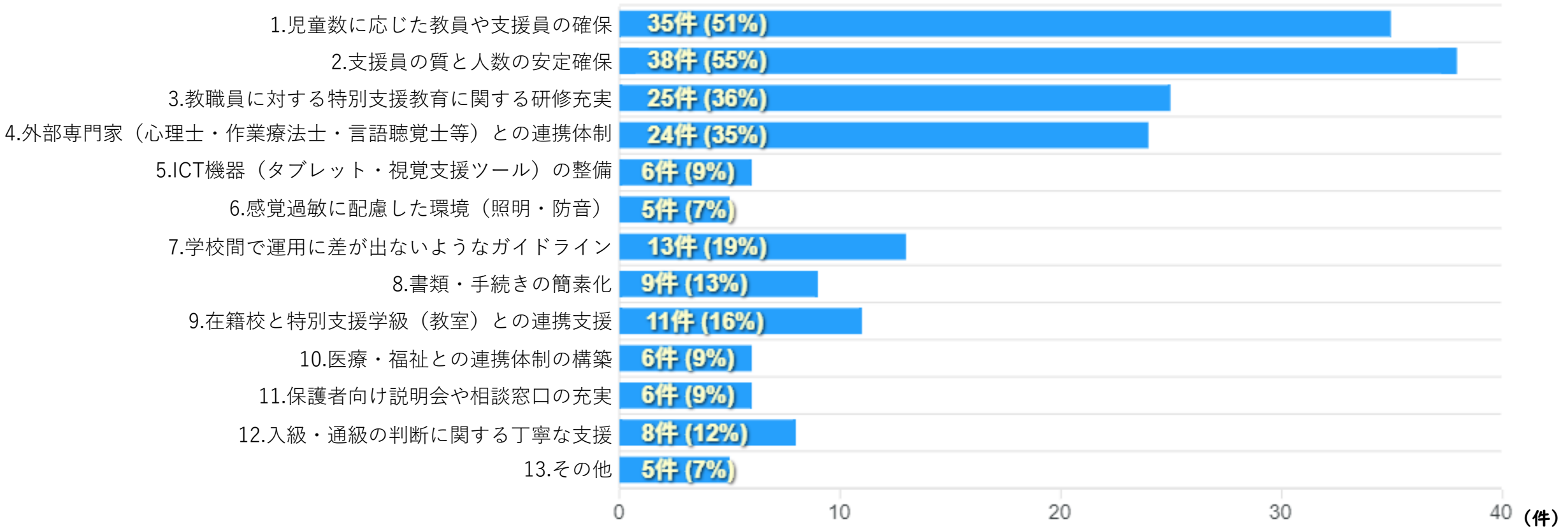
Q5.特別支援学級（教室）に保護者として特に期待することを教えてください。（３つまで選択可）



1.子どもの実態に合った個別支援が59件（86%）で最も多い結果となりました。次いで、3.子どもの様子の定期的な共有が34件（49%）、2.学習面での丁寧なサポートが27件（39%）でした。

6.特別支援学級（教室）において教育委員会に特に期待すること

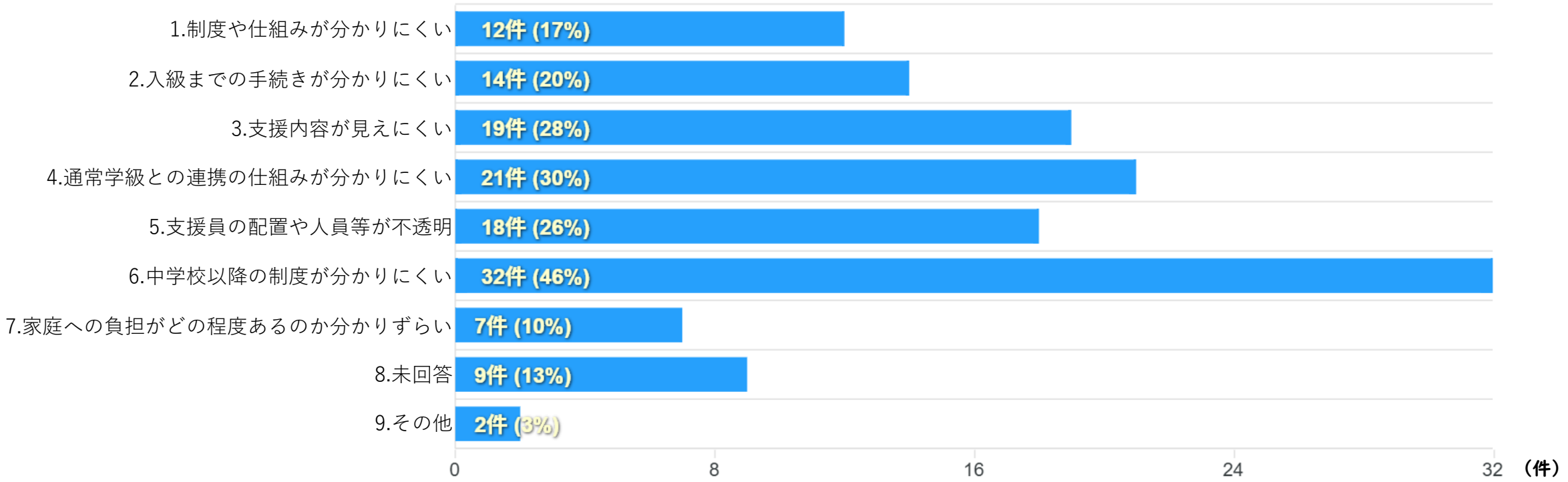
Q6.特別支援学級（教室）において教育委員会に特に期待することを教えてください。（３つまで選択可）



2.支援員の質と人数の安定確保が38件（55%）で最も多い結果になりました。次いで、1.児童数に応じた教員や支援員の確保が35件（51%）、3.教職員に対する特別支援教育に関する研修充実が25件（36%）でした。

7.特別支援学級（教室）に関して、分かりにくいと感じる点

Q7.特別支援学級（教室）に関して、分かりにくいと感じる点があればを教えてください。（複数選択可）

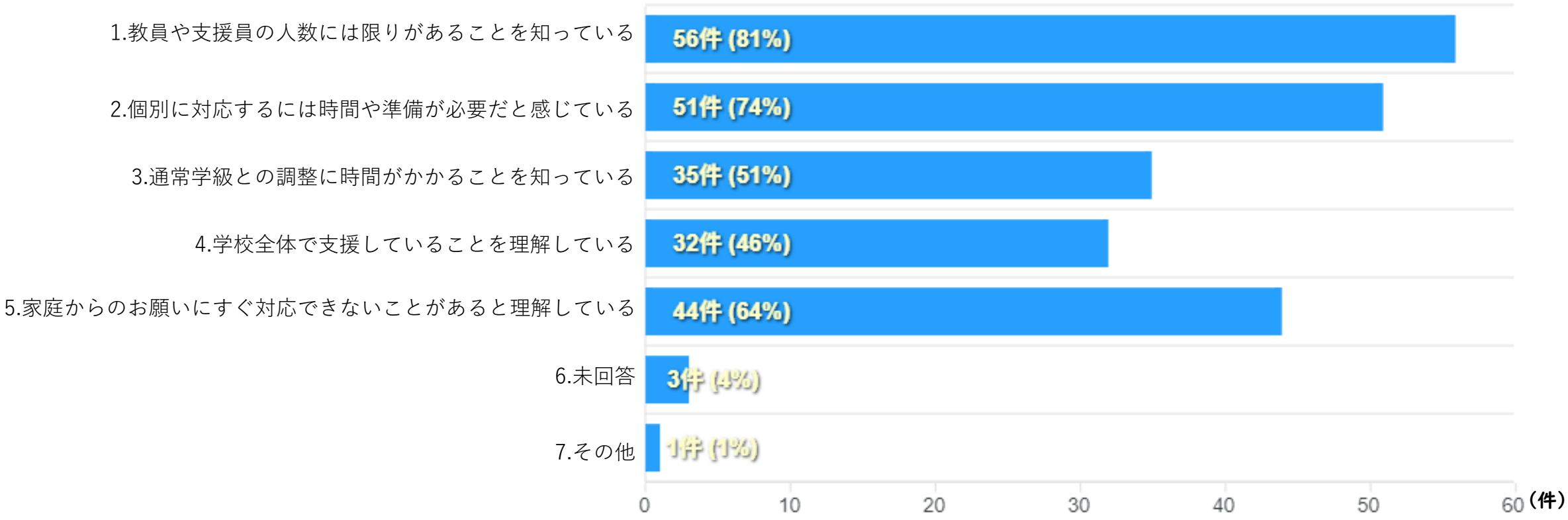


6.中学校以降の制度が分かりにくいが32件（46%）で最も多く、次いで、4.通常学級との連携の仕組みが分かりにくい21件（30%）、 3.支援内容が見えにくい19件（28%）、 5.支援員の配置や人員等が不透明が18件（26%）でした。

市内の特別支援学級に関して保護者が最も分かりにくいと感じているのは「中学校以降の制度」（46%）でした。

8.特別支援学級（教室）での支援について、学校側の状況や負担について

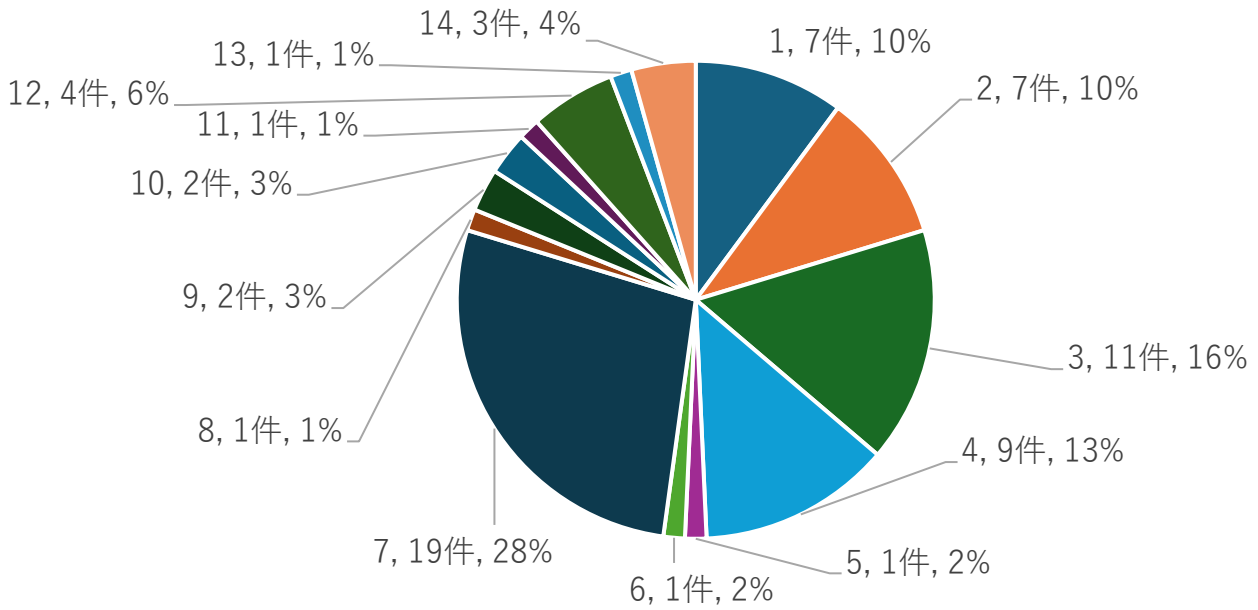
Q8.特別支援学級（教室）での支援について、学校側の状況や負担について理解している内容を教えてください。（複数選択可）



1.教員や支援員の人数には限りがあることを知っているが56件（81％）で最も多かった。次いで、2.個別に対応するには時間や準備が必要だと感じているが51件（74％）でした。

9.学校生活での困りごとについて

Q9.学校生活で最も困っていることは何ですか。最もあてはまるものを教えてください。（１つ選択）



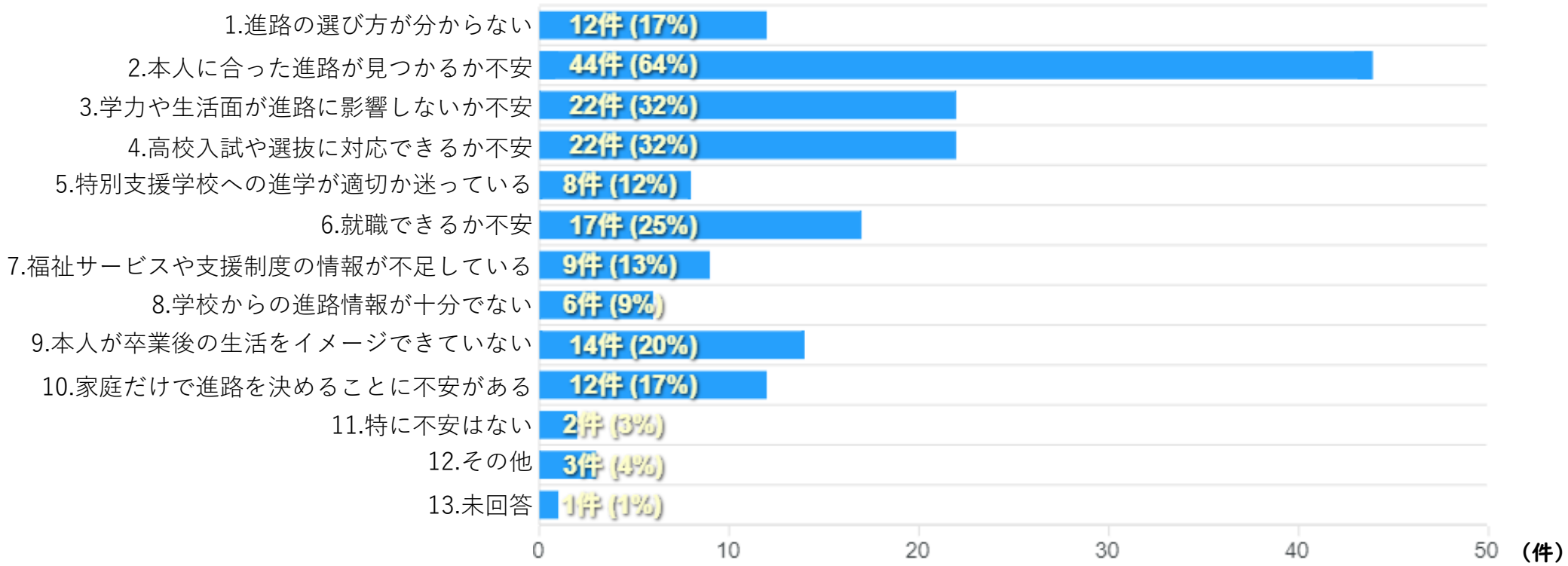
市内の特別支援学級を利用する児童の保護者が子どもの学校生活で最も困っていることは7.「気持ちのコントロールの難しさ」（28%）であり、情緒面の課題が学校生活の中心的な困りごととなっていることが分かります。

次いで3.「友達との関係がうまくいかない」（16%）、4.「行事や集団活動への参加が不安」（13%）が多く、対人関係や集団参加の困難が学校生活に大きく影響しています。

一方で1.「授業内容が理解しづらい」2.「学習のペースが合わない」といった学習面の困りは各10%と比較的少ない結果となりました。

10.卒業後の進路について

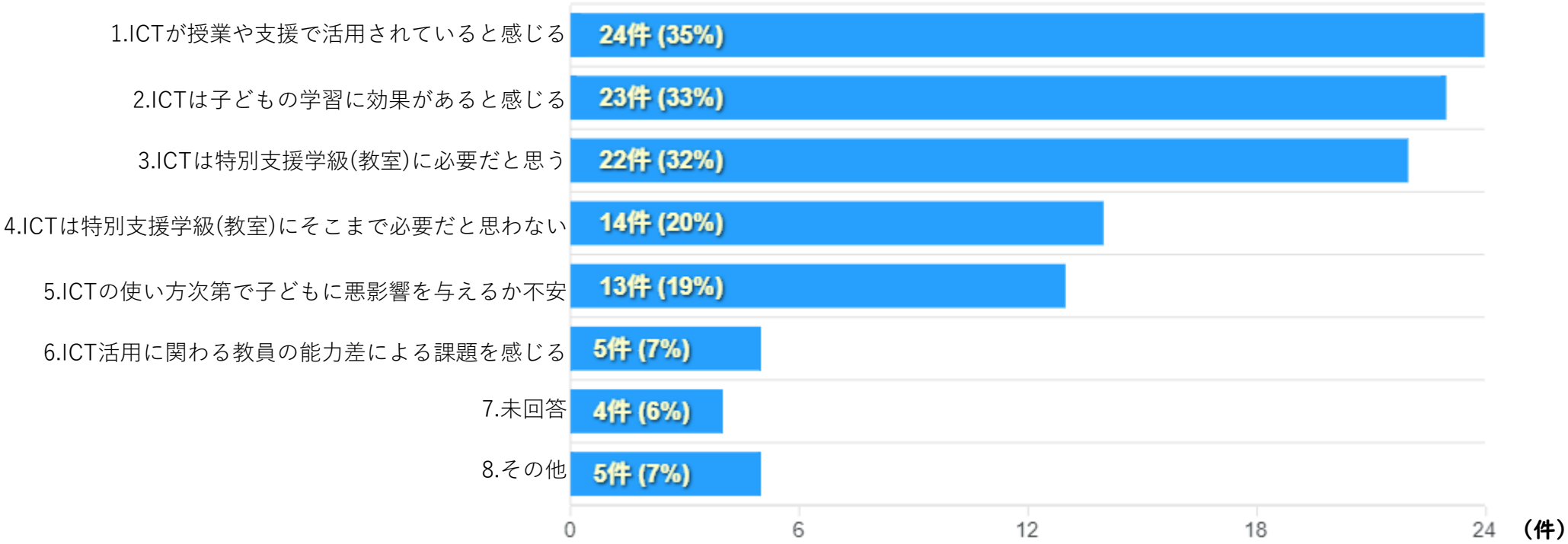
Q10.卒業後の進路に対しての不安について、どのように感じていますか。（３つまで選択可）



2.本人に合った進路が見つかるか不安が44件（64%）で最も多く、次いで、3.学力や生活面が進路に影響しないか不安が22件（32%）と4.高校入試や選抜に対応できるか不安が22件（32%）で2番目に多くなりました。
その他の意見として、「高校の先の進路(就職か進学)は大丈夫か不安がある」や、「5年生になり、時間割や宿題の予定表が保護者にはわからないためサポートが中途半端になってしまうこと。」という意見もありました。

11.特別支援学級（教室）におけるICT（タブレット・PC等）の活用について

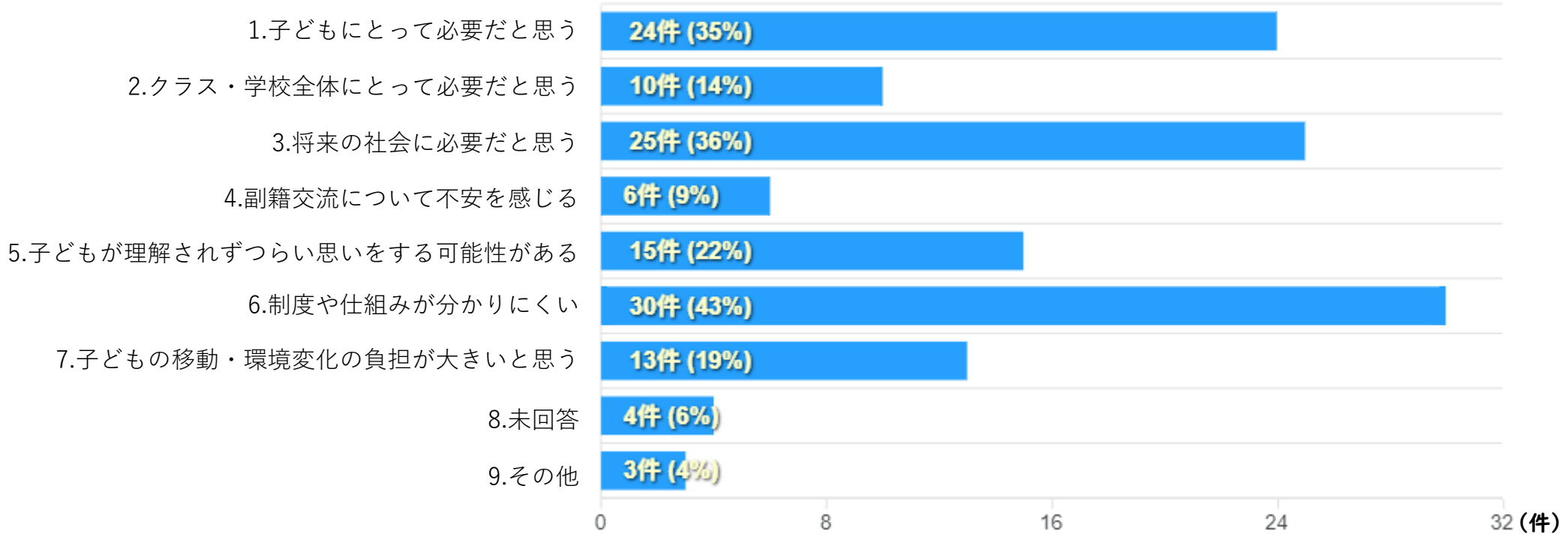
Q11.特別支援学級（教室）におけるICT（タブレット・PC等）の活用について、どのように感じていますか。（３つまで選択可）



1.ICTが授業や支援で活用されていると感じるが24件（35%）で最も多くなりました。次いで、2.ICTは子どもの学習に効果があると感じる、3.ICTは特別支援学級（教室）に必要だと思うの二つの選択肢がそれぞれ23件、22件（33%、32%）になりました。一方で、4.ICTは特別支援学級（教室）にそこまで必要だと思わないが14件（20%）で4番目に多い結果となりました。
その他の意見として、「授業での使用の有無については特に意見は無いのですが、先生・担任・保護者で連絡する際の青ファイルが、アプリ等の通信に変わると便利かなとは思います。子どもがファイルを忘れることもあったり、親が自宅で書く時間なかなか持てなかったりするため、通信系なら移動中などでも入力できるかと思いました。」や、「通級での指導にも有効だと思うので、活用していただけるとありがたいです。」という前向きな意見もある一方で、「そもそもタブレットを使っているのを見たことが無い」という意見もありました。

12.副籍交流について

Q12.副籍交流について、どのように感じていますか。（３つまで選択可）

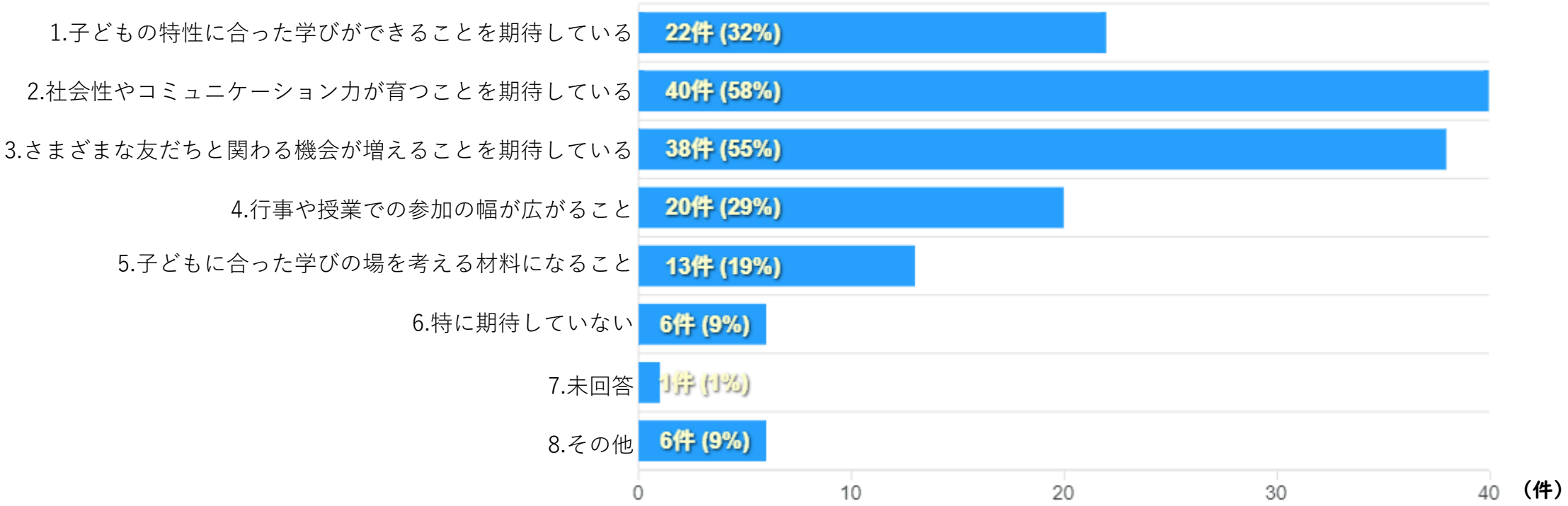


6.制度や仕組みがわかりにくいが30件（43%）で最も多く、次いで、3.将来の社会に必要だと思うが25件（36%）でした。三番目に多かった意見は、1.子どもにとって必要だと思うが24件（35%）でした。

市内の特別支援学級を利用する保護者が副籍交流について最も分かりにくいと感じているのは「制度や仕組み」（43%）であり、交流の目的や流れが十分に伝わっていないことが最大の課題として示されました。一方で「将来の社会に必要だと思う」（36%）、「子どもにとって必要だと思う」（35%）という回答が多く、副籍交流が社会性の育成や子どもの成長にとって重要な機会であると保護者が認識していることが分かりました。また自由記述では「そもそもよくわからない」という意見もありました。

13.副籍交流についての期待

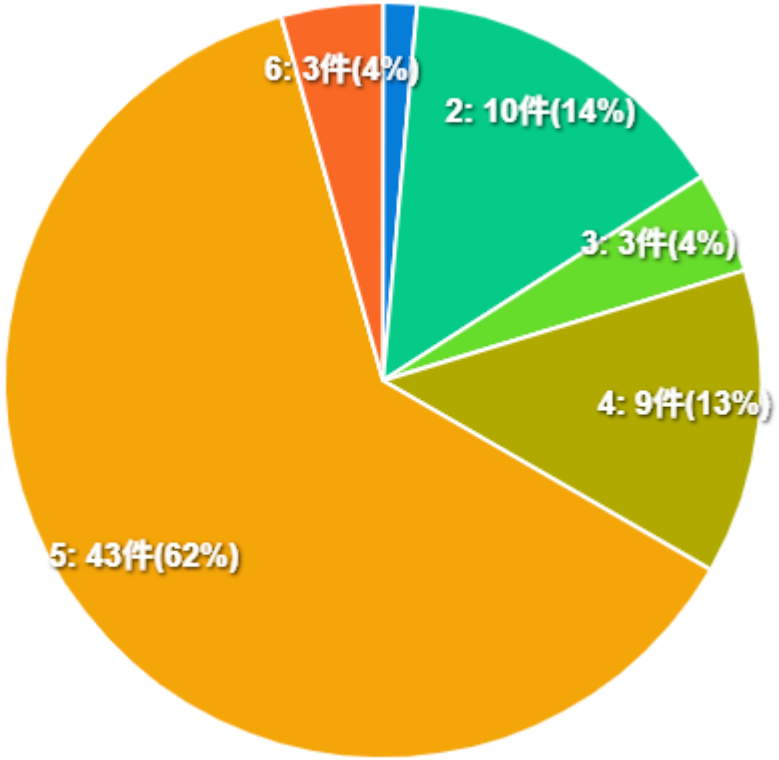
Q13.副籍交流について、期待することを教えてください。（３つまで選択可）



２　.社会性やコミュニケーション力が育つことを期待しているが40件（58％）で最も多く、次いで、3.さまざまな友だちと関わる機会が増えることを期待しているが38件（55％）でした。三番目に多かった意見は、1.子どもの特性に合った学びができることを期待しているが22件（32％）でした。
その他の意見は、「副籍交流は希望者がいた場合に実施するものであり、全員が行うものではないので、多様性の理解やコミュニケーション力の向上等をねらいとするのではなく、あくまでも地域との繋がりの維持のみを目的とするべきだと考えます。」という意見がありました。

14.副籍交流の頻度について

Q14.副籍交流の頻度について、感じていることを教えてください。（１つ選択可）

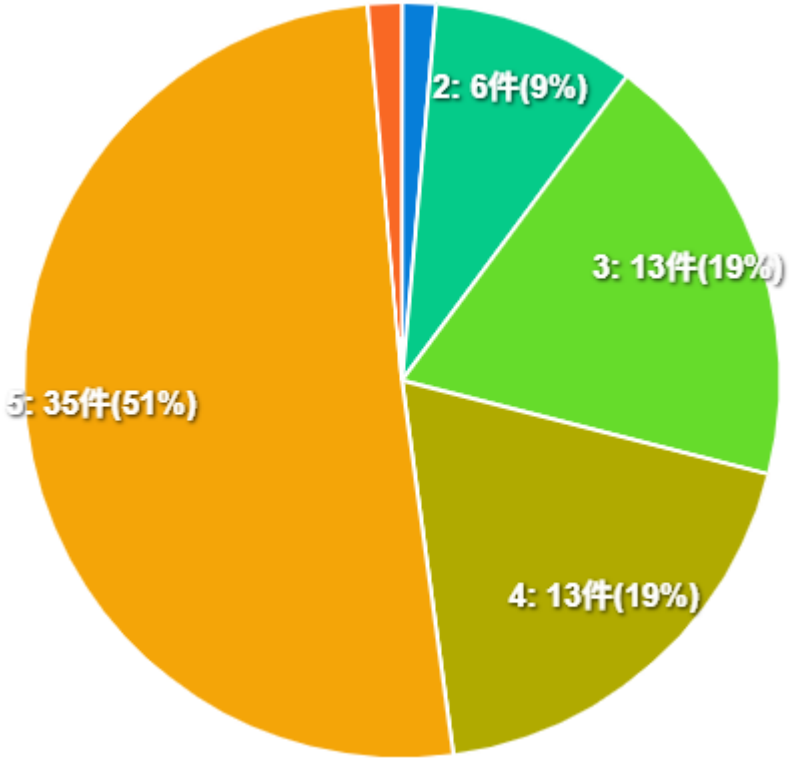


1.とても多いと感じる1件
2.ちょうどよいと感じる10件（14％）
3.少ないと感じるが3件（4％）
4.ほとんど機会がない9件（13％）
5.よくわからない43件（62％）
6.未回答3件
合計：69件

市内の特別支援学級を利用する保護者が副籍交流の頻度について最も多く感じているのは「よくわからない」（62％）になりました。「ちょうどよい」（14％）、「ほとんど機会がない」（13％）という回答かも一定数ありました。

15.きこえの教室（難聴通級）について

Q15.きこえの教室（難聴通級）がどのような学習を行う場所か知っていますか。（１つ選択可）

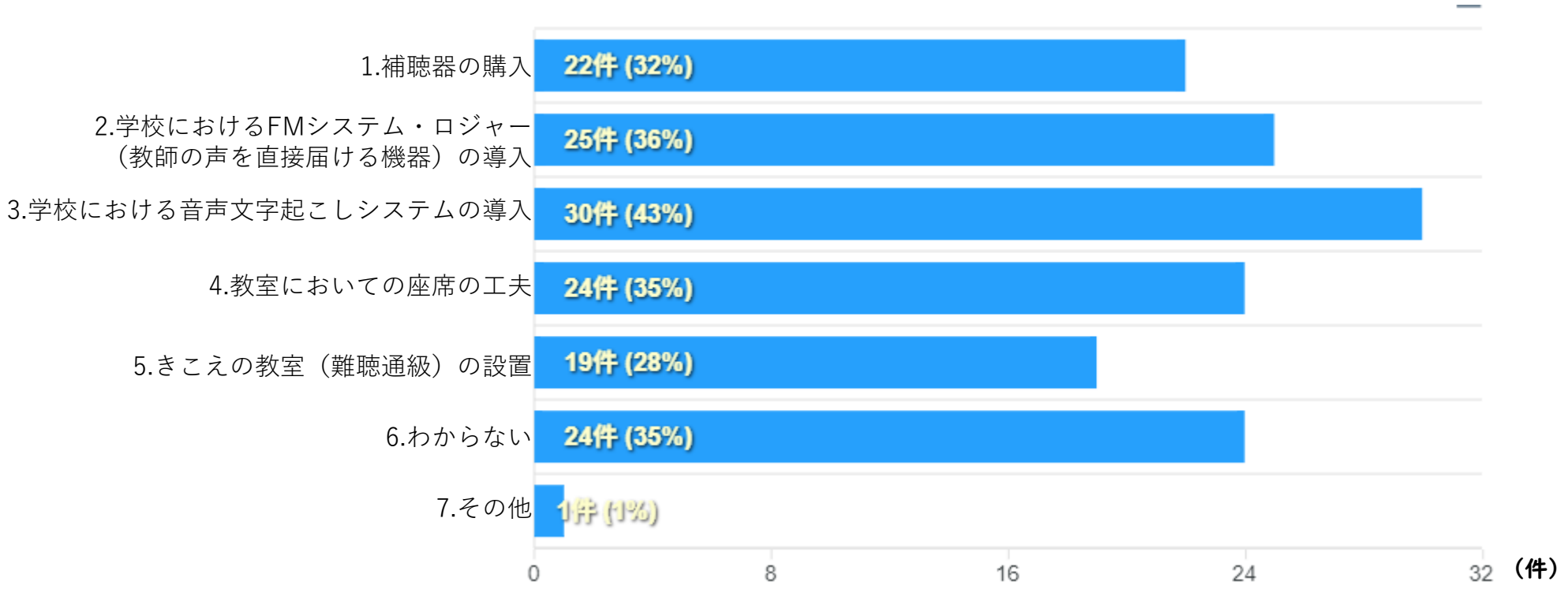


1.よく知っている1件
2.ある程度知っている6件（9％）
3.名前は聞いたことがある13件（19％）
4.あまり知らない13件（19％）
5.全く知らない35件（51％）
6.未回答1件
合計：69件

市内の保護者の「きこえの教室（難聴通級）」に対する理解は極めて低く、「よく知っている」「ある程度知っている」を合わせても10％にとどまりました。一方で「全く知らない」（51％）、「あまり知らない」（19％）が合計70％となりました。

16.難聴による障害がある子どもにとって、有効であると思う手段について

Q16.難聴による障害がある子どもにとって、有効であると思う手段を選択してください。（複数選択可）



市内の保護者が難聴による障害のある子どもに有効だと感じている支援として最も多かったのは「音声文字起こしシステムの導入」（43%）であり、ICTによる聞こえの補償への期待が高いことが示されました。次いで「FMシステム・ロジャーの導入」（36%）、「教室における座席の工夫」（35%）が多く、機器による聞こえの改善と環境調整が有効な支援として認識されています。